

### 第3回国連防災世界会議パブリックフォーラム「震災時のがん医療」で講演しました (2015/3/14)

テーマ：大規模災害時におけるがん医療への支援体制の課題と対策について  
場所：東北大学川内北キャンパス C201

第3回国連防災世界会議パブリックフォーラム「震災時のがん医療」が、3月14日に東北大学川内北キャンパスで開催されました。主催は「東北がんプロフェッショナル養成推進プラン」で、災害医学研究部門 災害産婦人科学分野の伊藤潔がコーディネーターとして関わっています。このプランは東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学の4大学協定による共同プランで、地域のがん医療水準向上のためのがん専門医療人の養成、将来のがんの臨床研究を担う若手研究者育成、東日本大震災や中越地震の被災地域から得たノウハウと教育基盤を生かした大規模災害時の地域がん医療支援を担う医療チーム養成を主目的としています。今回のフォーラムのテーマは大規模災害時におけるがん医療への支援体制の課題と対策についてで、約60人の参加者があり、会場はほぼ満席で盛況でした。

下記の方々の講演がありました。

1. 開会あいさつ：東北大学加齢医学研究所臨床腫瘍学分野教授 石岡千加史先生
2. 座長の言葉：東北大学医学系研究科地域がん医療推進センター教授 森 隆弘先生
3. 東北大学病院総合地域医療教育支援部教授 石井 正先生  
「石巻医療圏における東日本大震災への対応と次への備え」  
震災後に唯一機能を残した石巻赤十字病院での医療対応についてのご講演。
4. 石巻赤十字病院消化器内科部長 赤羽武弘先生  
「東日本大震災の経験から学んだ事」  
巨大津波により一瞬にして病院機能を喪失した石巻市立病院での経験と、病院のデータのバックアップ機能の重要性に関するご講演
5. 山形大学医学部東北未来がん医療学講座助教 萩原靖倫先生  
「東日本大震災で東北がんネットワーク〔放射線治療専門委員会〕が果たした役割」  
大災害時において地域がんネットワークによる情報収集・共有・利用が、がん治療維持に有効であったことに関するご講演
6. 石巻赤十字病院がん看護専門看護師／緩和ケア認定看護師 菅野喜久子氏  
「東日本大震災の被災沿岸地域の医療者へのインタビュー調査に基づく災害時におけるがん患者の緩和ケア・在宅医療の在り方に関する研究」  
災害時のがん患者の緩和ケア・在宅医療に関する問題やその対応方法に関するご講演
7. 東北大学災害科学国際研究所・災害医学研究部門・災害産婦人科学分野教授 伊藤潔  
「東日本大震災が子宮がん検診に及ぼした影響と対策」  
震災後、子宮がん検診の細胞診検体が身元不明者のDNA鑑定による身元特定に有効であったこと、宮城県の子宮がん検診受診率が、被災地ではいまだに低迷しており、その傾向は特に若年者において顕著であること、子宮がん予防ワクチンの接種率の状況、そして災害などのストレス因子ががん患者に及ぼす影響の可能性を話し、今後の被災地住民の長期健康保持を図る上で、災害に強い検診体制の再構築は不可欠であることを強調しました。

震災後4年が過ぎ、がん医療に特有な課題が浮き彫りとなりました。震災直後の石巻の状況から、医療者や医療機関のネットワーク、放射線、在宅緩和、そして検診、というように多方面からの問題提起があり、貴重な意見交換の場が得られ、今後の災害時のがん医療システムを構築する上で、有意義なフォーラムであったと思います。

(次ページへつづく)



講演を行う伊藤教授



満席の講演会場の様子



質疑応答の様子

文責：伊藤 潔（災害医学研究部門）